

# ほっかいどうの社会保障

2011年7月16日

北海道社会保障推進協議会

Tel:011-758-2648

FAX:758-4666

## 長引く不況で貧困問題ますます深刻！相談32件

### SOSネット西区（札幌）が 第3回目の相談会

7月8日、SOSネット西区は、第3回相談会を行い、26名延べ32件の相談がありました。

相談内容は、貧困問題が一番多く、生活保護申請を当日だけで4件しました。ホームレスの方は2名で、一人は26歳、もう一人は安いホテルを転々と暮らし、手元に2万円しか無くなった50代男性で、その日にアパートを借り後日生活保護申請しました。法律相談では、債務整理、自転車同士の事故、商売を辞める時の補償人の問題、マンションの問題等多岐に渡り、医療相談は医療費の支払いや任意継続保険等、介護相談は「親を施設に入れたいがどこに施設があるのか

」「支援と認定されサービスが思うように使えない」などの相談でした。「保険料を掛けているが、このままで年金がもらえるのだろうか」という相談もありました。当日は、39名の実行委員及び相談員が参加しています。

相談内容	(件)
生活福祉	13
医療	3
介護	2
法律	8
住まい	5
年金	1
計	32

事務局の桜井さんは、「長引く不況の中、貧困問題は益々深まっているように感じます。また、生活上の問題は幅広くあり、各専門家が連携しあって、相談会を行う必要性を感じました」と話しています。



## 介護保険のシンポジウムに200人以上が参加

— 「軽度者の介護と地域支援事業」をテーマに 十勝社保協 —

7月13日、十勝社保協は、とちプラザでシンポジウム「介護保険制度のゆくえ～軽度者の介護と地域支援事業～」を開催しました。市内の介護事業所関係者や地域の高齢者など200名が参加し、会場は入りきらないほどいっぱいとなりました。

来年4月から、市町村の判断で、要支援等の軽度者の給付が新たに「介護予防・日常生活支援総合事業」が可能になりますが、その詳細な内容は明らかになっていません。

シンポジウムでは、帯広市介護支援専門員連絡会会長が進行し、帯広市から介護保険課長と高齢者福祉課課長補佐、地域包括支援センター、介護支援事業所、ヘルパーステーションの各管理者の5名が発言しました。

市の担当者からは、帯広市の高齢化率は22.4%（2010）と年々増加し、要介護認定者数も毎年300～400人ずつ増加して2010年で7,166人、その半数が軽度者（要支援1・2、要介護1）であること、地域包括支援センターからは、介護予防事業などに参加することで元気で暮らしている独居高齢者、往診とヘルパー・訪問リハビリの利用と息子の援助で生活が維持できている高齢者夫婦の紹介。ケアマネからは、要介護と要支援を行き来する高齢者の現状や認知症高齢者への支援の取り組みが報告されました。ヘルパーステーションからは、訪問介護の役割と専門性が報告され、軽度者が新たな枠組みによってサービスが受けられなくなることへの懸念などが報告されました。



帯広市はすでに第5期事業計画策定に向けて「市民アンケート」を実施しています。十勝社保協では、必要な介護が受けられるように、今後開かれる意見交換会に参加して実態や意見を伝える取り組みとともに、必要に応じて懇談や申し入れなど行っていくことにしています。

（十勝社保協事務局ニュースより）